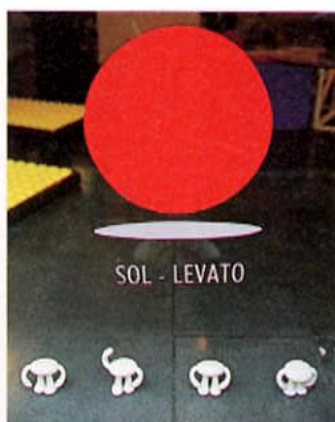


日本人アーティスト5人が開いたメゾン・SOL LEVATO

テーマは「床に近い生活を楽しむ」



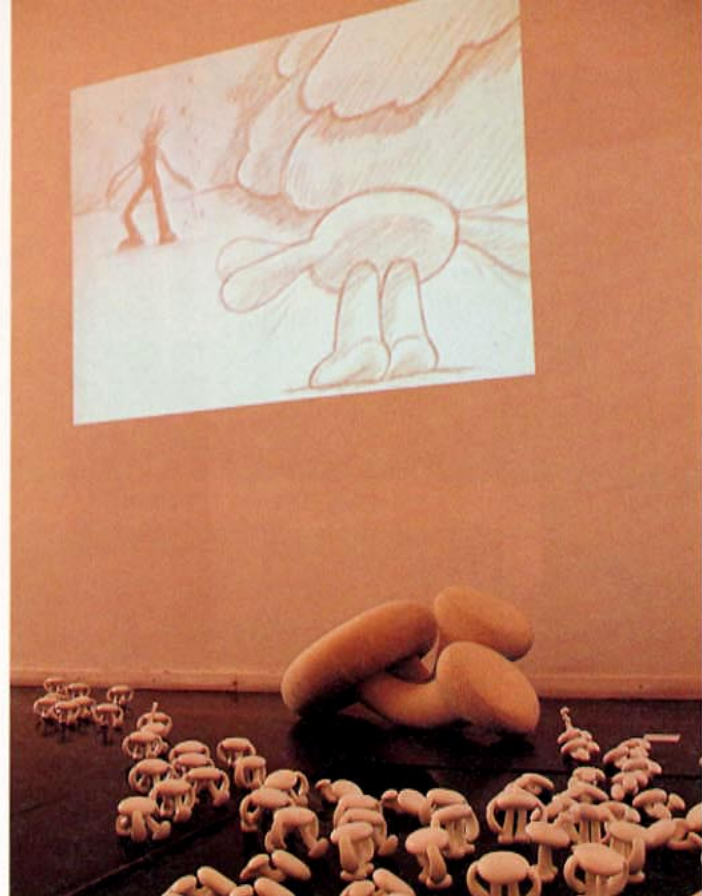
窓に張られたメゾンのマークはどことなく、日の丸を連想させる。床に置いてあるのは鴻池朋子さんの作品。コンパクトでかわいいこの作品に目を留め、メゾンへ入ってくる人も多かった。

鴻池朋子さん

重なる・動かす、作品に手を加えられる
インタラクティブ性が魅力



1960年、秋田県生まれ。東京芸術大学絵画科日本画卒業。トイデザイン、家具デザインなどを手掛け、93年よりソフトスカルプチャー（柔らかい彫刻）を発表。六本木アークシギャラリーで個展も積極的に開催。96年4月より、女子美術大学非常勤講師も務め、「ファインアートのプレゼンテーション」を実験中。



床に寝ころんでいる柔らかいオブジェはクッション・椅子としても使える。リラックスしたいときに、なつきたくなるような温かい雰囲気の魅力。小さな作品はソフトビニール製、デスクトップの友達として、空間にユーモアを与える。考え事をしているバジジョン、寝転がっているバジジョンなどがある。映像作品は立体作品のキャラが主人公のアニメーション。音楽とビジュアルで、受け手にさらなるアプローチを働きかける。



酒井俊彦さん
お釈迦様の寝姿のような背もたれ、シリコンを使った家具が新鮮

1964年、高知県生まれ。東京造形大学を卒業。(株)コーソーデザインスタジオに入社し、NECハンディ98プロジェクト、相模大野伊勢丹新規出店プロジェクトなどにたずさわる。91年、取材をかねて渡豪、翌年帰国し、(有)サカイ・デザイン・アソシエイツを設立。



サローネ初参加の日本人5人衆と、メゾンのコーディネートを担当したイタリア人、パトリック・アキーン。15日にオープニングパーティを開催、あいにくの雨にもかかわらず、ジャーナリスト、デザイナーをはじめ大勢の人が集まった。展示は16日、20日まで、ギャラリーを舞台に行なわれた。

グリーンの寝椅子は、脚部が中空になっているため、クッションが効いていて、寝心地がいい。2種類の背もたれは、床でくつろいで過ごすための提案。オブジェ感覚で置くのも楽しい。シリコンを使った作品は、シリコン部分だけを取り外すことも可能。暑い日には冷蔵庫で冷やして、清涼感を楽しむのも手。